

親の干渉しすぎは、指示待ちの子どもを育てる！

子どもが一人でやっているのを見ているよりも手を出してしまったり、子どもが気づくまで待つより口を出した方が楽なので、ついつい干渉してしまったりする親御さんはいらっしゃらないでしょうか。これを続けると、自分では何も決めることができず、親の指示を待つ子どもを育てることになりかねません。そしてその結果、中学生や高校生になっても身の回りのことさえできない子どもになってしまうかもしれません。

子育ては、子どもの成長に合わせて養育態度を変えていく必要があります。日本には昔から、プロセスを説いた言葉があります。

乳児期・・・愛する
幼児期・・・躾ける
児童期・・・教える
思春期・・・考えさせる

生まれた乳児の頃は「愛する」、幼児の頃は「躾ける」、小学生の頃は「教える」、思春期にあたる中学生・高校生の頃は「考えさせる」という育て方です。

乳児期はしっかりと愛して信頼関係を築き上げ、物事が分かり出した幼児期はしつけを始め、まずは自分の身を守ることを教えます。

この時期、親が着替えなど心配なあまり見守ることができずに手を出し口を出してやってしまうと、子どもは何もしなくなり、自主性の育たない子どもになります。

第二反抗期にあたる思春期に入って自己主張をしだしたり、身の回りのことに関心が向き「どうして」という質問を発したりした時に、きちんと受け止めてあげずに「今忙しいので後で」と答えてしまうと好奇心や想像力の芽を摘むことになり、周りのことに関心を持ってはいけないんだと思うようになります。しつけが厳しすぎても、子どもは何かをすれば叱られると思い込み、慎重でおとなしい子どもに育ってしまいます。

また、友達と遊ぶ機会が少ない子どもは、友達とのコミュニケーションのとれない、遊べない、集団生活を嫌がる子どもになってしまいます。

子育てでは、しつけの初期の段階から子どもが適度な自発的努力ができるような環境づくりに努めれば、自主性や積極性が定着していきます。また、しつけが定着することにより、身辺処理（整理）や対人関係が持てるようになります。社会的行動の基本ができると、自主的な活動の中から達成感や成就感、さらには存在感を感じるようになります。

親は、乳児の頃の「愛する」という発達段階を除いてその後の養育では、徐々に子どもにしてやりたいことを我慢して見守っていくことが大事です。親にとっては忍耐のいることで、ストレスが溜まるかもしれませんが、子どもの将来のことを考え、子どもが自分の意志で行動できるように導いてやるのが大切になります。

「親」という漢字の成り立ちに、次のような俗説があることをご存じの方もいらっしゃると思います。

「親」という字を見てみると、「立」と「木」と「見」でできています。これは、小鳥が巣立つとき、親鳥は少し離れた枝から「大丈夫、がんばれ」「こっちの枝に飛んでおいで」と声をかけて見守る様子が描かれたものなのです。ここに、親のあるべき姿があるのです。決して手取り足取り教えるのではなく、親鳥のようにそっと子どもを信じて見守ってあげなくてはならないのです。

なかなか難しいところがありますが、このような見方・考え方で子育てにあたりたいものです。

応援してくれるパパへ（子どもからの手紙）

次の手紙は、スポ少のサッカーで頑張っているサッカー少年が、自分の父親へ書いた手紙です。サッカー少年への期待の大きさと子どもの父親への願いが分かると思いますので、参考にしてみてください。

パパ、パパがこの間ピッチの外に置いてあったゴールによじ登って、レフリーに文句を言ったでしょ。あの時、僕はすごく頭にきて泣きそうになったんだ。あんな怒り方、今まで見たことなかったよ。たぶん、レフリーが間違っただとは思う。でも、僕がたとえパパの言うように「レフリーのせいで試合に負けたんだ」としても、そんなことはどうでもよくて、僕はとっても楽しかったんだ。だから、僕がプレーしているときには、「パスしろ！」とか「シュートだ！」とか叫び続けるのはやめて。パパの言うことはあっているかもしれないけど、僕が緊張してしまうんだ。パパ、もう一つあるんだ。試合中にコーチが僕のことを交代させても、怒らないで。僕は、ベンチに座ってみんながプレーしているのを見るのだって楽しいんだよ。僕らは大勢いるし、みんながプレーしなきゃだめでしょ。

それから、僕にサッカーシューズをきれいにするやり方を教えてくれる？僕のなんだから、パパがやってくれなくていいんだよ。僕が、自分でできるようにならなきゃいけないんだよ。それから、スポーツバックは僕が持ちたいんだ。バックにはチームの名前が書いてあるから、僕がサッカー選手だってまわりのみんながわかるだろう？僕、それが好きなんだ。

パパ、お願い。試合の後に、ママに「今日は勝った」とか「負けた」とかって話すのやめて。ママには、僕がとっても楽しんでたと伝えてほしいんだ。

それから、僕がすごいシュートを決めたから勝ったって言うのもやめてね。だって、そうじゃないんだもの。僕がシュートを決めたのは、仲間が僕に良いパスをくれたからなんだよ。勝ったのは、僕らのゴールキーパーが必死に相手のシュートを防いでくれて、チームの仲間が全員でせいっぱいがんばったからなんだ（コーチが僕らにそう教えてくれるんだ）。

怒らないでね、パパ。こんなこと書いてしまったけど、僕、パパが大好きなんだ。

教育相談室の活用の仕方！

